

ハンセン病と沖縄

—奥間政則さんが語る二つの国策差別—



2024年3月17日、高麗博物館主催
 伊波敏男さんギャラリートーク会場にて

奥間政則さんは、1965年奄美大島名瀬市生まれ。1級土木施行管理技士として30年近く現場責任者として土木工事に従事。父親が戦後、ハンセン病を発症し、沖縄を出てハンセン病療養所奄美和光園に入所。そこで母親と知り合い結婚。奥間さんを出産した。和光園は全国の療養所で唯一、断種・墮胎を行っていなかった。50歳で、幼少期より父親から受けてきたDVがハンセン病への差別や偏見によるものを知り、沖縄への基地の押し付けと両親が受けたハンセン病差別が同じ国策による差別と気づき、ハンセン病と向き合ってきた。奥間さんは、二つの国策差別と闘っている理由を「元ハンセン病患者のとーちゃんが残してくれた手記や愛楽園の証言集でとーちゃんの苦しみを知ったからです」（「ネパリ・バザーロつなぐつながる学びの会」チラシより）と語っている。

今回、新しく完成した奥間さんの半生を描いたドキュメンタリー「二つの国策差別に翻弄された父母への想い—ハンセン病差別・琉球弧の軍事化拡大—」の上映、さらに奥間さんのお話で、ハンセン病差別と沖縄差別を考えていきたい。

[構成]

- ドキュメンタリーDVD上映 14:00(105分)
 「二つの国策差別に翻弄された父母への想い
 奥間政則—ハンセン病差別・琉球弧の軍事化拡大—」
 (DVD制作・著作:「隣の人」工房)
 —休憩(15分)—
- 奥間政則さんトーク 15:55(60分)
- 質疑応答 16:55(25分)
- 終了 17:20

11月4日(月・祝)

14時～17時20分

しんじゅく多文化共生プラザ

東京都新宿区歌舞伎町2丁目44番1号
 (東京都健康プラザハイジア11階)

TEL:03-5291-5171

- ▶参加費(資料代)1,000円
- ▶定員30名(要予約)



お申込みは
 QRコードから
 できます

会場は高麗博物館ではありません。
 高麗から歩いて5分ほどの
 「しんじゅく多文化共生プラザ」(ハイジア11階)です。

